



京大広報

No. 510

1997. 2



第50回ライスボウル ー関連記事184ページー

目次

第9次定員削減の実施にあたって
総長 井村 裕夫……170

〈大学の動き〉

- 自衛消防団員に感謝状贈呈……………170
- 課外活動団体学生が消防訓練を実施……………170
- 平成9年度入学者選抜学力試験
（第2次学力検査）の期日等……………171
- 平成9年度入学者選抜学力試験
（第2次学力検査）の志願状況……………172
- 平成8年度の停年退職教官……………173

〈医療技術短期大学の動き〉

- 平成9年度医療技術短期大学部
入学志願者状況……………177
- 平成8年度の停年退職教官……………177

〈日誌〉……………178

〈訃報〉……………178

〈文化交流〉

- ノルウェーはあまりに遠かった
畑 俊充……………180

〈随想〉

- 隕石、波および ENIAC
名誉教授 山元龍三郎……………181

〈京都大学の百年（第23回）〉

- 京都帝国大学の創立と第三高等学校
ー一つの史料からー……………182

〈洛書〉

- 節分祭と魔女狩り 高橋 義人……………184

〈話題〉

- アメリカンフットボール部
2年連続学生日本一に輝く……………184

第9次定員削減の実施にあたって

総長 井村 裕 夫

国立大学においては、過去8回にわたる公務員の定員削減（「定削」）により、教育・研究支援職員の数が激減し、大きい影響を受けてきました。昨年決定された科学技術基本計画においても、支援職員の充実が科学技術の発展のため極めて重要であると指摘されています。昨年夏、行財政改革の一環として第9次「定削」計画が話題となりましたので、国立大学協会ではこれ以上教育・研究支援職員の減少を来たすことがないように、早速要望書を作成し、政府、与党に提出するとともに、直接責任者に面談し、国立大学の窮状の理解を求め、「定削」から国立大学を除外するよう要望いたしました。しかし、昨年末に決定された第9次「定削」では、文部省では2.94%と公務員の平均4.11%より少ないとはい

え、「聖域は設けない」という政府の方針によって「定削」計画が決定いたしました。

国立大学の場合、教育職及び医療職（看護婦等）の定員削減比率が少ない（0.4%）ため、今回その他の職種の大幅な削減（8.35%）が求められることとなりました。このことによって職員の皆様に負担をかけることは大変心苦しいことではありますが、巨額の財政赤字を抱えるわが国の現状をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

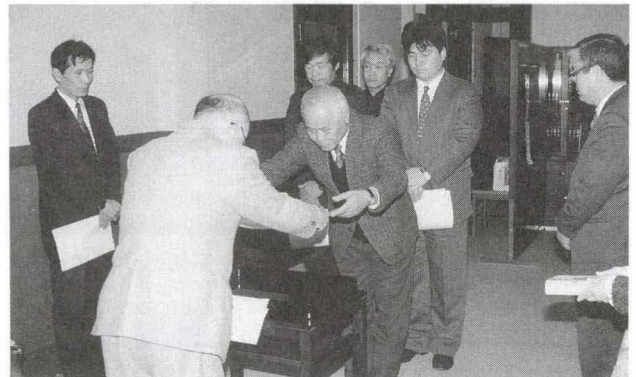
なお、京都大学としましては、事務機構の簡素化、合理化を進めるとともに、国立大学協会を通じて、引き続き教育・研究支援職員の増加の実現に努力する所存であります。

大学の動き

自衛消防団員に感謝状贈呈

12月19日（木）午後4時より事務局長室において、自衛消防団員に対する総長からの感謝状と記念品が黒川事務局長より贈呈された。

この日感謝状を受けた団員は、湯浅純明（工学部）、里深好文（防災研究所）、青山茂男（経理部）、橋本義雄（経理部）の各氏である。



課外活動団体学生が消防訓練を実施

学生部では、12月19日（木）に西部構内において、京都市左京消防署の協力のもと課外活動施設を利用する学生を対象に防火意識の高揚を図ることを目的として、消防訓練を実施した。

当日は、左京消防署予防課長による講演「防火管理の意識の高揚について」に続き、火災時の消火方法について、消火器を利用した消火訓練を行った。

なお、今回の消防訓練は、課外活動施設を利用する学生を対象にした初めての訓練であり、訓練後、



学生達は学生部から提供された温かい豚汁に舌鼓をうちながら、今回は消火栓を利用する訓練も行いた

いと意欲をみせる等、防火に対する認識を新たにしていた。

(学生部)

平成9年度入学者選抜学力試験（第2次学力検査）の期日等

平成9年度入学試験（第2次学力検査）を、次の予定で実施する。

○ 前期日程試験

| 月 日 | 教 科 | 学 部 | 時 間 |
|--------------|-------|------------------------------|----------------|
| 2月25日 (火) | 国 語 | 総合人間「文系」・文・教育・法・経済「一般」 | 午前9時30分～11時30分 |
| | | 総合人間「理系」・理・医・薬・農 | 午前9時30分～11時 |
| | 数 学 | 総合人間「文系」・文・教育・法・経済「一般」 | 午後1時～3時 |
| | | 総合人間「理系」・理・医・薬・工・農 | 午後1時～3時30分 |
| | 論 文 | 経済「論文」 | 午前9時30分～12時30分 |
| | | | 午後2時～4時30分 |
| 2月26日 (水) | 外 国 語 | 総合人間・文・教育・法・経済「一般」・理・医・薬・工・農 | 午前9時30分～11時30分 |
| | 理 科 | 総合人間「理系」・理・医・薬・工・農 | 午後1時～3時30分 |
| | 地理歴史 | 総合人間「文系」・文・法・経済「一般」 | 午後1時～2時30分 |
| | 論 文 | 経済「論文」 | 午前9時30分～12時 |

○ 後期日程試験

| 月 日 | 教 科 | 学 部 | 時 間 |
|--------------|-------|-----------------|----------------|
| 3月13日 (木) | 国 語 | 総合人間・文・教育・経済 | 午前9時30分～11時30分 |
| | 論 文 | 医 | 午前9時30分～11時30分 |
| | 数 学 | 総合人間・教育・経済 | 午後1時～3時 |
| | | 理・医・薬・工・農 | 午後1時～3時30分 |
| 論 文 | 文 | 午後1時～3時 | |
| 3月14日 (金) | 外 国 語 | *総合人間 | 午前9時30分～11時45分 |
| | | 文・教育・法・経済・医・薬・農 | 午前9時30分～11時30分 |
| | 理 科 | 理・医・薬・工・農 | 午後1時～3時30分 |
| | 論 文 | 教育 | 午後1時～3時 |
| 法 | | 午後1時～3時30分 | |

(注) *総合人間学部（後期）の外国語の試験において、ドイツ語、フランス語、中国語を選択した者は、聞き取りテストを行わないので、午前9時30分～11時30分とする。

平成9年度入学者選抜学力試験（第2次学力検査）の志願状況

志願票の受付は、1月27日（月）から2月4日（火）までの間に、各学部で行われた。

学部別の入学志願者数は、次表のとおりである。

| 学 部 | 募集人員 | 志願者数 | 倍 率 | (参考) 昨 年 度 | | | |
|---------|---------|-----------------|------------------|------------|-----------------|------------------|------|
| | | | | 募集人員 | 志願者数 | 倍 率 | |
| 総合人間学部 | 前期 (文系) | 55 ^人 | 274 ^人 | 5.0 | 55 ^人 | 255 ^人 | 4.6 |
| | 〃 (理系) | 55 | 269 | 4.9 | 55 | 266 | 4.8 |
| | 後 期 | 20 | 420 | 21.0 | 20 | 351 | 17.6 |
| 文 学 部 | 前 期 | 190 | 651 | 3.4 | 190 | 588 | 3.1 |
| | 後 期 | 30 | 467 | 15.6 | 30 | 464 | 15.5 |
| 教 育 学 部 | 前 期 | 40 | 194 | 4.9 | 40 | 172 | 4.3 |
| | 後 期 | 20 | 159 | 8.0 | 20 | 147 | 7.4 |
| 法 学 部 | 前 期 | 340 | 982 | 2.9 | 340 | 1,005 | 3.0 |
| | 後 期 | 60 | 684 | 11.4 | 60 | 629 | 10.5 |
| 経 済 学 部 | 前期 (一般) | 160 | 518 | 3.2 | 160 | 581 | 3.6 |
| | 〃 (論文) | 50 | 311 | 6.2 | 50 | 342 | 6.8 |
| | 後 期 | 30 | 491 | 16.4 | 30 | 576 | 19.2 |
| 理 学 部 | 前 期 | 294 | 1,035 | 3.5 | 294 | 961 | 3.3 |
| | 後 期 | 32 | 1,153 | 36.0 | 32 | 1,264 | 39.5 |
| 医 学 部 | 前 期 | 90 | 459 | 5.1 | 90 | 476 | 5.3 |
| | 後 期 | 10 | 308 | 30.8 | 10 | 407 | 40.7 |
| 薬 学 部 | 前 期 | 70 | 190 | 2.7 | 70 | 186 | 2.7 |
| | 後 期 | 10 | 156 | 15.6 | 10 | 153 | 15.3 |
| 工 学 部 | 前 期 | 940 | 2,470 | 2.6 | 940 | 2,646 | 2.8 |
| | 後 期 | 110 | 1,415 | 12.9 | 110 | 1,431 | 13.0 |
| 農 学 部 | 前 期 | 252 | 764 | 3.0 | 252 | 736 | 2.9 |
| | 後 期 | 63 | 829 | 13.2 | 63 | 762 | 12.1 |
| 合 計 | | 2,921 | 14,199 | 4.9 | 2,921 | 14,398 | 4.9 |
| | 前 期 | 2,536 | 8,117 | 3.2 | 2,536 | 8,214 | 3.2 |
| | 後 期 | 385 | 6,082 | 15.8 | 385 | 6,184 | 16.1 |

(注) 法学部（後期日程）と経済学部（後期日程）には、外国学校出身者のための選考の募集人員20名以内と10名以内とを、また、両学部の志願者数には、同選考試験の志願者60名と25名が含まれている。

平成8年度の停年退職教官

京都大学教員停年規程により、次の方々（教授56名、助教授9名、講師2名、助手3名）が本年3月31日付
 けて退職される。

| 部局・職名 | 氏名 | 生年月日 | 出身地 出身校 | 講座等 | 研究分野等 |
|----------------|-------|---------------|------------|----------------------------|---|
| 総合人間学部 教授 | 吉田 忠 | 昭和 9. 3.26 | 茨城 京大 | 人間学科 生活空間論講座 | 経済統計学, 特に統計資料及び統計指標 の作成利用過程に関する社会科学的 研究 |
| 〃 | 山口 裕 | 〃 8. 4.14 | 京都 京大 | 国際文化学科 文化構造論講座 | 二十世紀ドイツ小説の研究 |
| 〃 | 高津 春久 | 〃 8. 4.23 | 大阪 京大 | 国際文化学科 文明論講座 | 中世ドイツ宮廷詩の研究 |
| 〃 | 渡邊 久義 | 〃 9. 2.13 | 岐阜 京大 | 国際文化学科 言語文論講座 | 英米現代詩を中心とする文化論的 研究 |
| 〃 | 佐藤 康彦 | 〃 8.12.15 | 宮城 京大 | 国際文化学科 欧米文化・社会論 講座 | 近代オーストリア文学とシオニズムの 研究 |
| 〃 | 八木 保 | 〃 8.11. 8 | 東京 京大 | 自然環境学科 環境適応論講座 | 学校保健分野における身体発育に 関する研究 |
| 大学院文学研究科 教授 | 内山 俊彦 | 〃 8. 6.24 | 神奈川 京大 | 文献文化学専攻 東洋古典学講座 | 先秦・秦漢・魏晋その他の時代に わたる中国思想史の研究 |
| 〃 | 岩倉 具忠 | 〃 8. 9.10 | 東京 京大 | 文献文化学専攻 欧米語学・欧米文 学講座 | ダンテを中心とするイタリア中世 文学研究および言語思想史的研究 |
| 〃 | 大山 喬平 | 〃 8. 5. 7 | 京都 京大 | 歴史文化学専攻 日本史学講座 | 日本中世史の研究 |
| 〃 | 永田 英正 | 〃 8.10.18 | 鳥取 京大 | 歴史文化学専攻 東洋史学講座 | 中国古代史の研究 |
| 教育学部 教授 | 坂野 登 | 〃 8.12.15 | 熊本 京大 | 教育心理学 教育心理学講座 | 能力・学力・人格の神経心理学的 研究 |
| 〃 | 高木 英明 | 〃 8. 5. 8 | 岡山 京大 | 教育社会学 教育行政学講座 | 大学の法的地位と自治機構に 関する研究, 地方教育行政に 関する実証的研究 |
| 大学院法学研究科 教授 | 龍田 節 | 〃 8. 9. 6 | 兵庫 京大 | 民刑事法専攻 商事法講座 | 会社法ならびに関連分野の 研究 |
| 〃 | 野田 宣雄 | 〃 8.12. 4 | 滋賀 京大 | 政治学専攻 政治外交史講座 | ドイツ近現代史に関する 研究 |
| 講師 | 竹部 正子 | 〃 9. 3. 1 | 広島 安女大 | (共通講座) 総合法政分析講座 | |
| 経済学部 教授 | 池上 惇 | 〃 8. 8.20 | 大阪 京大 | 経済学科 財政・地域産業講 座 | 欲求と文化の経済学的分析を 基礎とした現代財政システムの 総合的解明および国際比較に 関する研究 |
| 大学院理学研究科 教授 | 福留 秀雄 | 〃 8.10. 3 | 京都 京大 | 物理学・宇宙物理 学専攻 物質物理学講座 | 機能性分子の電子構造の 研究 |

| 部局・職名 | 氏名 | 生年月日 | 出身地 出身校 | 講座等 | 研究分野等 |
|-------------------|-------|--------------|------------|------------------------------------|---|
| 大学院理学研究科 教授 | 鎮西清高 | 昭和 8.12.6 | 長野 横国大 | 地球惑星科学専攻 地球惑星科学 講座 | 古生物学, 特に無脊椎動物の群集古生態 と機能形態に関する研究 |
| 助 手 | 瀧明夫 | 〃 8.8.20 | 愛媛 大 | 生物学専攻 自然史学講座 | アリ類の社会構造に関する研究 |
| 教 授 | 藤澤久雄 | 〃 8.11.27 | 山京 口大 | 生物学専攻 分子植物科学講座 | バクテリオファージの頭部形成機構に関 する研究並びに高等植物胚発生及び重力 屈性の分子生物学的研究 |
| 〃 | 前田章夫 | 〃 8.8.2 | 京阪 都大 | 生物学専攻 高次情報形成学講 座 | 光受容タンパク質の機能発現機構に関 する研究 |
| 大学院医学研究科 助教授 | 増田徹 | 〃 8.9.23 | 愛京 媛大 | 病理系専攻 感染・免疫学講座 | 免疫学, ことに自己免疫性(A型)胃炎 を中心とする自己免疫性臓器炎発症機序 に関する分子病理学的研究 |
| 教 授 | 糸川嘉則 | 〃 8.10.27 | 東京 京大 | 社会医学系専攻 国際地域環境医学 講座 | 衛生学, 特にビタミン, ミネラル類の作 用機序の解明に関する研究 |
| 助 教 授 | 木村美恵子 | 〃 8.6.23 | 京京 都大 | 社会医学系専攻 社会予防医学講座 環境医学 | 環境医学分野において疾病の予防と栄 養, 特にビタミン, ミネラルとの関連に 関する研究 |
| 教 授 | 大熊稔 | 〃 8.6.30 | 岡京 山大 | 内科系専攻 臨床器官病態学講座 血液病態学 | 血液病学, 特に出血性素因と血栓性疾患 の病態生理ならびに予防・治療に関する 研究 |
| 助 教 授 | 森賀本幸 | 〃 8.11.10 | 愛京 媛大 | 内科系専攻 臨床器官病態学講座 血液病態学 | 消化器病学, 特に消化性潰瘍の病態生理 と治療に関する研究, 並びに脳・腸ペ プチドに関する研究 |
| 教 授 | 森徹 | 〃 9.2.8 | 香京 川大 | 内科系専攻 臨床生体統御医学 講座 臨床病態検査学 | 内分泌学, ことに自己免疫性甲状腺疾患 の成因および病態, さらに検査診断学並 びに遺伝子診療に関する研究 |
| 〃 | 森崇英 | 〃 8.10.8 | 徳京 島大 | 外科系専攻 器官外科学講座 婦人科学産科学 | 婦人科学産科学, 特に生殖内分泌学, 生 殖免疫学領域の研究, 体外受精を含めた 不妊症の診断と治療の臨床研究 |
| 〃 | 伴敏彦 | 〃 9.1.9 | 広京 島大 | 外科系専攻 器官外科学講座 心臓血管外科学 | 心臓血管外科学, 特に虚血性心疾患およ び胸部大動脈瘤の外科治療, 補助循環に 関する研究 |
| 薬学 部 教 授 | 宮嶋孝一郎 | 〃 9.2.20 | 愛京 知大 | 製薬化学科 薬品物理化学講座 | 水溶液の構造と物性及び脂質分子集合体 の物性とその応用に関する研究 |
| 大学院工学研究科 教授 | 高棹琢馬 | 〃 8.12.20 | 福京 井大 | 土木システム工学 専攻 社会システム工学 講座 | 流出系の分析・同定・予測, 水資源シ ステムの計画・管理, リモートセンシング を利した水文現象解析と予測 |
| 〃 | 佐々宏一 | 〃 8.4.30 | 京京 都大 | 資源工学専攻 探査計測システム 工学講座 | 地球物理学的手法による地下探査に関 する研究, 原位置岩盤評価に関する研究, 爆破工学に関する研究 |
| 〃 | 森田司郎 | 〃 8.10.23 | 兵京 庫大 | 環境地球工学専攻 環境構成材料学講座 | 鉄筋コンクリート構造の設計・施工・維 持に関する基礎的研究 |

| 部局・職名 | 氏名 | 生年月日 | 出身地 出身校 | 講座等 | 研究分野等 |
|-----------------------|------|---------------|-----------------|---|---|
| 大学院工学研究科 教授 | 三村浩史 | 昭和 9. 2. 8 | 和歌山 京大 | 環境地球工学専攻 居住空間工学講座 | 居住地計画の研究, 都市総合計画の研究, 歴史的町並み保存の研究, 人間居住論の研究 |
| 〃 | 中村恒善 | 〃 8.10. 3 | 大京 阪大 | 生活空間学専攻 生活空間開発工学 講座 | 建築構造物の地震時応答制約剛性設計, 空間構造及び複合構造系の逆問題と設計理論, 骨組の分岐・崩壊挙動 |
| 〃 | 赤松映明 | 〃 9. 2. 6 | 大京 阪大 | 機械工学専攻 機械システム工学 講座 | 流体機械ならびに医療機器に関する流体工学的基礎研究 |
| 助 〃 手 | 尾島明 | 〃 8.11.28 | 京京 都都 工織大 | 機械工学専攻 機械力学講座 連続体力学研究分野 | 金属疲労に関する研究 |
| 講 〃 師 | 藤村威明 | 〃 9. 3.20 | 東東 京大 | 機械工学専攻 熱流体工学講座 流体工学研究分野 | 遠心式ジェットポンプの実験的研究, 液体ロケットエンジンの始動過度特性の研究 |
| 〃 教 授 | 安陪稔 | 〃 8. 6.17 | 鳥京 取大 | 電気工学専攻 電力工学講座 電力変換制御工学 分野 | パワーエレクトロニクス回路とその工学的応用に関する研究 |
| 〃 | 小倉久直 | 〃 8. 4. 6 | 三京 重大 | 電子通信工学専攻 伝送メディア工学 講座 光メディア工学分野 | 光・電波工学 |
| 〃 | 矢島脩三 | 〃 8.12. 6 | 大京 阪大 | 情報工学専攻 計算機工学講座 論理回路分野 | 論理回路理論と計算機工学 |
| 〃 | 沖野教郎 | 〃 8.10.13 | 徳徳 島島大 | 応用システム科学 専攻 応用人工知能論講座 | ソリッドモデラーを核とする計算機援用設計論の研究および生物型自律分散要素で構成する生産システムの研究 |
| 〃 | 岡崎守男 | 〃 8. 6. 2 | 京京 都都大 | 化学工学専攻 化学システム工学 講座 | 乾燥操作, 吸着操作など拡散系単位操作に関する研究 |
| 農 学 部 教 授 | 草薙得一 | 〃 8.10. 1 | 香京 川大 | 農学科 雑草学講座 | 耕地雑草の生理生態並びに防除に関する研究 |
| 〃 | 岩坪五郎 | 〃 8.10. 7 | 京京 都都大 | 林学科 森林生態学講座 | 森林生態における物質循環に関する研究 |
| 〃 | 神崎康一 | 〃 9. 2.23 | 滋京 賀大 | 林学科 林業工学講座 | 森林路網配置計画に関する研究, 森業用架線に関する研究, 平面型架線の開発研究 |
| 〃 | 駒野徹 | 〃 8. 9.29 | 新京 潟大 | 農芸化学科 生物化学講座 | DNA の高次構造と生物活性に関する分子生物学的研究 |
| 〃 | 丸山利輔 | 〃 8.10.17 | 岐京 阜大 | 地域環境科学専攻 地域環境管理工学 講座 水環境工学分野 | かんがい排水学, 応用水文学, 土壌物理学に関する研究 |
| 〃 | 並河清 | 〃 9. 2.22 | 京京 都都大 | 地域環境科学専攻 生物生産工学講座 生産制御工学分野 | 農業機械とそのシステムの自動化と省エネルギー化に関する研究 |
| 助 〃 手 | 香川泰伸 | 〃 9. 1.31 | 香京 松山 農科大 | 生物資源経済学専攻 比較農史農学論講座 比較農史学分野 | わが国の農業・農村通史および歴史科学の意義に関する研究 |

| 部局・職名 | 氏名 | 生年月日 | 出身地 出身校 | 講座等 | 研究分野等 |
|-------------------------|--------|---------------|----------------|-----------------------------------|--|
| 農学部 教授 | 北村 貞太郎 | 昭和 8.11.15 | 山 京 京 大 | 熱帯農学専攻 地域計画論講座 | 地球環境保全のための土地利用／被覆変化、農村土地利用計画及び環境保全型地域計画に関する研究 |
| 農学部附属演習林 助教 | 山本 俊明 | 〃 9. 2.18 | 京 都 京 大 | | 森林作業における作業者の労働科学的研究 |
| 大学院人間・環境 科学研究科 教授 | 竹市 明弘 | 〃 8.11.28 | 愛 知 京 大 | 人間・環境学専攻 人間存在基礎論講座 | ハイデガー及び現代ドイツ哲学の研究に基づき、根源的日常的性の哲学の構築を目指す現象学的・解釈学的研究 |
| 大学院エネルギー 科学研究科 教授 | 中廣 吉孝 | 〃 8. 9.19 | 大 阪 京 大 | エネルギー応用科 学専攻 資源エネルギー学 講座 | 地球環境調和型資源精製プロセスの要素技術に関する研究 |
| 化学研究所 教授 | 坂東 尚周 | 〃 9. 1.15 | 徳 島 京 大 | 無機素材化学研究 部門 | 無機素材の合成と物性に関する研究 |
| 人文科学研究所 教授 | 梅原 郁 | 〃 9. 1. 1 | 京 都 京 大 | 歴史地理研究部門 | 中国宋代史研究（特に官僚制度史の研究）及び旧中国の法制の研究 |
| 〃 | 谷 泰 | 〃 9. 1.17 | 福 岡 京 大 | 社会人類学研究部 門 | 社会的相互行為過程の記述方法論としてのコミュニケーション理論と文化的イデオロギー形成過程に関する研究 |
| 胸部疾患研究所 教授 | 久世 文幸 | 〃 9. 1. 6 | 三 重 京 大 | 生体防御学部門 感染・炎症学分野 | 呼吸器感染防御能の研究、結核と非定型抗酸菌症の診断、病態、治療に関する研究、気道炎症病態に関する研究 |
| 助 教 授 | 大川 欣一 | 〃 8.11.23 | 青 森 弘 前 大 | 細胞調節学部門 細胞生物学分野 | ペルオキシターゼ及びカタラーゼの細胞化学的研究、とくに両酵素とM-ナズ反応との関連性について |
| 食糧科学研究所 教授 | 浅田 浩二 | 〃 8.12. 6 | 京 都 京 大 | 食糧生産環境研究 部門 | 植物光合成と活性酸素に関する研究 |
| 〃 | 安本 教傳 | 〃 9. 2.27 | 京 都 京 大 | 食品構造機能研究 部門 | 微量栄養素の食品栄養学的研究、食品による老化制御に関する研究、食品成分の非破壊分析の研究 |
| 防災研究所 教授 | 光田 寧 | 〃 8.10.13 | 奈 良 京 大 | 大気災害研究部門 | 台風、集中豪雨など中小規模異常気象現象および境界層における地空相互作用に関する研究 |
| 〃 | 村松 久史 | 〃 8. 8.10 | 長 野 京 大 | 大気災害研究部門 | 気候災害に関する研究、特に気候に関わる大気組成の研究 |
| 助 教 授 | 中村 重久 | 〃 8.10. 4 | 長 崎 京 大 | 附属災害観測実験 センター 白浜海象観測所 | 災害にかかわる海象気象変動予測に関する理工学的観測実験研究 |
| 基礎物理学研究所 教授 | 長岡 洋介 | 〃 8. 7.21 | 岩 手 東 大 | 物性理論研究部門 | 固体の電子的性質および固体・液体ヘリウムの理論的研究 |
| 数理解析研究所 教授 | 山崎 泰郎 | 〃 9. 1.15 | 山 口 京 大 | 応用解析第二研究 部門 | 関数解析、無限次元空間の測度論に関する研究 |
| 原子炉実験所 助教 | 小林 慎江 | 〃 8. 7.13 | 東 京 早 稲 田 大 | 原子炉安全管理研 究部門 | 同位体の製造と利用に関する研究（同位体を利用した溶液化学的研究） |

| 部局・職名 | 氏名 | 生年月日 | 出身地 出身校 | 講座等 | 研究分野等 |
|------------------------|------|--------------|------------|-----------------|--|
| 原子炉実験所 助教 | 下浦一邦 | 昭和 8.9.11 | 大阪 大学 | 原子炉安全管理研 究部門 | 放射性廃棄物管理に関する研究 |
| 〃 | 辻本忠 | 〃 8.10.23 | 大阪 新潟大 | 原子炉安全管理研 究部門 | 保健物理に関する研究（環境放射線モニ タリングに関する研究（特にラドンにつ いて）） |
| 生体医療工学研究 センター 教授 | 前谷俊三 | 〃 8.9.8 | 愛媛 大 | 人工臓器学研究部 門 | 消化器特に大腸の外科，制御工学の臨床 応用，医学データの統計解析，臨床決定 分析 |



医療技術短期大学の動き

平成9年度医療技術短期大学部 入学志願者状況

平成9年度医療技術短期大学部入学者選抜試験は、3月3日（月）と3月4日（火）の両日に実施されるが、入学願書の受付が1月31日（金）から2月6日（木）まで行われた。

学科別の入学志願者数は、次表のとおりである。

| 学 科 | 募集人員 | 志願者数 | 倍 率 |
|--------|------|-------|------|
| 看護学科 | 80人 | 278人 | 3.5 |
| 衛生技術学科 | 40 | 408 | 10.3 |
| 理学療法学科 | 20 | 279 | 14.0 |
| 作業療法学科 | 20 | 206 | 10.3 |
| 計 | 160 | 1,171 | 7.3 |

平成8年度の停年退職教官

京都大学医療技術短期大学部教員停年規程により、次の方（教授1名）が、本年3月31日付けで退職される。

| 部 局 | 氏 名 | 生年月日 | 出身地 出身校 | 講 座 等 | 研 究 分 野 等 |
|-----|-------|--------------|------------|-------|--|
| 教 授 | 川 井 浩 | 昭和 8.5.21 | 岐阜 大 | | 体育学の研究，体力の医科学研究，呼吸 循環機能を中心としたスポーツ選手の競技 力向上に関する研究 |

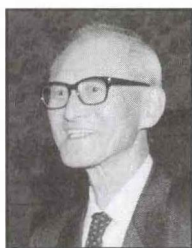
日誌

1996年12月1日～12月31日

- 12月11日 外国人研究者と本学関係教官等との懇談会
 ♪ 能楽観賞会
- 13日 中華人民共和国科学院 王 玉民副秘書長他 8 名来学，総長及び関係教官と懇談
 ♪ 環境保全委員会
 ♪ 人権週間に因む研修会
- 16日 放射性同位元素等管理委員会
- 17日 評議会
 ♪ 後援会助成事業検討委員会
- 18日 国際交流委員会
 ♪ 教職教育委員会
- 19日 年末特別消防演習
 ♪ 自衛消防団表彰式
- 26日 総長，職員組合との交渉に出席

訃報

堀尾 正雄 名誉教授



本学名誉教授 堀尾正雄先生は、平成8年12月21日逝去された。享年91。

先生は、昭和3年京都帝国大学工学部工業化学科を卒業，同大学工学部助教授を経て昭和16年教授に就任，創設された繊維化学科の第二講座を担当された。昭和44年3月停年により退官され，京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間，昭和28年12月から同31年12月まで化学研究所長を，また同32年4月から同34年3月まで工学部長を，さらに同35年9月から同41年3月まで工学研究所長を歴任され大学の管理運営に貢献された。

先生は，繊維化学，中でもパルプおよび人造繊維の製造ならびにそれらの微細構造の研究に特筆すべ

き先駆的業績を残された。

その間，学外においても，大学設置審議会委員，国立大学研究所協議会委員，大学学術局工学視学委員，日本学術会議会員，中央教育審議会委員，科学技術会議委員としてわが国の文教行政，学術研究の発展に尽くされた。さらに日本材料学会副会長，繊維学会会長，国際レオロジー委員会委員長，日本化学会会長，日本レオロジー学会会長を歴任された。

これら一連の研究教育活動・文教行政活動により昭和45年11月紫綬褒章を，昭和50年11月勲二等瑞宝章を受けられ，また平成5年度文化功労者として顕彰された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院工学研究科)

鈴木 友二 名誉教授



本学名誉教授 鈴木友二先生は，1月4日逝去された。享年84。

先生は，昭和12年東京帝国大学医学部薬学科を卒業，京城薬学専門学校教授，京都帝国大学（現京都大学）医学部副手（嘱託），同助手，同講師（嘱

託），同助教授を経て昭和27年同教授に就任，同35年同大学薬学部配置換となった。その後昭和40年大阪大学たんぱく質研究所教授に転出され，昭和49年，京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間，昭和42年12月1日から同44年8月15日まで大阪大学たんぱく質研究所長として研究所の管理運営に貢献された。大阪大学を退官後は，明治薬科大学教

授を務められた。

先生は、蛇毒に含まれる酵素の研究から血圧降下作用などを示す血中キニンの酵素的遊離機構に関する研究へと生化学領域において優れた研究成果を残され、昭和54年度には「キニン系の蛋白化学とその制御に関する研究」で日本学士院賞を受賞された。

また、日本生化学会会長、薬学会副会頭などの要職を歴任され、わが国の薬学、生化学の発展に貢献された。これら一連の研究教育活動、学会活動により昭和51年10月紫綬褒章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(薬学部)

永野 芳郎 名誉教授



本学名誉教授 永野芳郎先生は、1月7日逝去された。享年69。

先生は、昭和25年京都大学文学部を卒業後、浪速大学（現在の大阪府立大学）助手、九州大学講師、助教授を経て同44年京都大学教養部助教授、同48年同教授に就任された。平成2年退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。本学退官後は、桃山学院大学教授に就任され、また日本英語学会評

議委員としても活躍された。

先生のご専門は英語学及びヨーロッパ比較言語学で、中でも古代から中世英語にわたる音韻・形態論的变化と統語的变化の研究において、数多くの優れた業績を残された。主な著書に『英語学要説』、『英語学から英文学へ』、『比較言語学入門』等がある。また、日本言語学会、中世英文学会においても指導的な役割を果たされた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(総合人間学部)

多田 政忠 名誉教授



本学名誉教授 多田政忠先生は、1月7日逝去された。享年90。

先生は、昭和4年京都帝国大学理学部物理学科を卒業、海軍技師、技術将校、第三高等学校教授を経て昭和25年京都大学吉田分校教授に就任、同38年教養部教授、同40年工学部教授に配置換となり、工学部では応用数学講座を担当された。昭和45年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和29年6月から同32年6月および昭和35年11月から同36年6月まで評議員として、

大学の管理運営に貢献された。本学退官後は、昭和45年4月から同54年3月まで京都産業大学理学部教授を務められた。

先生は流体力学、中でも高速度空気力学に関する研究において優れた研究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、同時に物理学（力学）の教育において多大の貢献をされた。主な著書に『物理学概説』、『力学概説』等がある。これら一連の研究教育活動により昭和52年4月勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院工学研究科)

文化交流

ノルウェーはあまりに遠かった

畑 俊 充

こうして一人暮らしが始まった

ノルウェーへいった7月は、ヨーロッパでは夏休みシーズン。この時期は国民の半数以上が1週間から3週間の夏期休暇をとります。サマータイムが採用されており午後4:00には研究所のほとんどの人が、「良い夕食を!」といって帰っていきます。(一度「早く帰って何をやるの?」とたずねたら、「庭の手入れや、子どもをスポーツクラブにつれていったりします」という答えが返ってきました) その姿を尻目に研究室の机に一人向かいながら、家族に対する考え方の違いを痛感し、妻や3才と4ヶ月の二人の息子を連れてこなかったことを後悔しました。すぐに「子どもを連れてくるように」と妻に国際電話をしましたが、あっさりと断られ、欧州にいる間は仕事に専念することにしました。

昨年7月1日から11月30日迄、長期在外研究員として欧州で滞在する約10ヶ月のうち5ヶ月間のノルウェーでの研究生活がこのようにしてはじまりました。研究の目的は、「木材本来の性質以外の機能をもつ木質材料の製造技術の開発」でした。

ノルウェーでの生活

研究所で世話になった人や友達に家に招かれる機会が何度かありました。アパートでも部屋の中はたいへん広く、居間は日本のデパートの洋家具売場のようでした。白熱電球をつかった間接照明がほとんどで、日本でみられる味気ない蛍光色の照明が見られません。夜になってもカーテンをひかないので、外からほとんどの家の中が覗けます。窓には飾り付けがされていて、競ったように部屋のインテリアに工夫がこらされています。クリスマスには天井から飾り付けがされ、ツリーも本物のドイツトウヒが部屋の中におかれていました。外は零下20度でも、家の中は電気ヒーターによる暖房でとても暖かく、子供たちが半そでで走り回っています。電気代は日本の約十分の一で、調理器具も電気式です。子供たちは雨や雪が降っていても外で遊びまわり、天気の良い日でも幼稚園の庭から子供たちの喚声が聞こえてきます。

テーブルの上におかれたろうそくに火をともし

ディナーをとります。食事や生活は質素で昼はオープンサンドイッチが普通です。同年輩の男性に聞くと、保育園と幼稚園に通う二人の息子さんの送り迎えと弁当づくりを毎日やっているのだそうです。共働きが普通ですが保育園代が高いとぼやいていました。しかし医療費は無料ですし、退職後の年金生活が保証されているのは大きな安心につながると思いました。ディナーのときにでてきたのは、厚切りハムとゆでたじゃがいも、ブロッコリーそして山盛りのいちごでした。

ノルウェーの人々は物にお金を使うよりも、夏や冬のバカンスのために貯金した方がいいと考えているようです。商品には約28%の税金がついており、種類はそう多くありません。しかし消費税が3%の現在の日本と比較しても、服、食料品などの生活用品が安いという印象がありました。若い人だけでなく年配の人もジーンズに色とりどりのレインコートというのが気候が変わりやすいオスロでの一般的な服装で、ここでのユニフォームとっていいかと思えます。売っているほとんどの衣服は家で洗濯でき、ドライクリーニングを必要とする服はほとんど見られませんでした。ノルウェーで高いのは酒、タバコなどの嗜好品と車やガソリンなどで、税金が100%以上かけられている場合もあるということでした。

オスロでは地下鉄、路面電車、バスなどの公共交通機関がよく発達しています。感心したのは町の中心だけでなく効外のどんな小さな駅でも階段の横にスロープが備えつけられていたことです。乳母車は日本のものと比べてたいへん大きく、乗り降りしやすいように電車、バスなどの入り口付近はひろいスペースがありました。地下鉄の階段やバスの乗り降りでは、近くを通りかかった人が乳母車を押すお母さんを手伝うのが当たり前です。車の通りが多い道についた横断歩道の前後には段差があり、車が減速せざるをえません。ノルウェーの高速道路は基本的に無料ですが、オスロの中心部の交通渋滞を緩和するために郊外から中心に向かうところに料金所があります。ここで止まらなくても通過のたびに、車

内のバックミラー横のフロントウインドーに取り付けられた小型の装置からでる信号が料金所で感知されます。自動的にカウントされた料金が、後で銀行で引き落とされるということを聞いたときは、その合理的なやり方に感動さえ覚えました。



心の豊かさを求めて

欧州といっても場所によって国民性がずいぶん違います。朴訥^{ぼくとつ}としたノルウェー人、国際感覚の豊かなオランダ人、どんなことにも完璧を求めるドイツ人など。それと同じで家も地域によって異なります。イギリス・ドイツなどの中空ブロックを使った住宅、北欧諸国で見られるパネル住宅・枠組壁住宅などです。ノルウェーでは平屋や2、3階建ての住宅が全体の建築物に占める割合が70%で、そのうち98%が木造住宅です。そのほとんどが気密性や断熱性がすぐれた品質の住宅です。窓枠はアルミサッシではなく木製のサッシですし、高速道路を通る車からの騒音を遮るために設置された防音壁も木製です。窓に木製サッシが用いられていますと、結露も

ほとんどなく断熱性も優れています。木製の防音壁はスチール製のものと性能はほとんど同じですし、何より周りの景観とあっていることが利点でしょう。床も木製のフローリングで、ホームセンターで買ってきて自分達で施工するのだそうです。木材が湿気で伸び縮みすることを考えてわずかに隙間をあけてとりつけることはノルウェー人にとって常識でさえあります。

ノルウェーで木材が好まれる理由として、人口と比較して木材が豊富にあって安い、木材をつかう伝統が古くからあるといったことがあげられます。しかしそれだけではなく、高い福祉レベルで知られているように、人に対するいたわりの気持ちが自然に対しても木材を使うという形で表れているような気がします。木材は生産から加工、廃棄にいたるまで環境にフレンドリーな材料です。加工エネルギーは金属、合成樹脂と比べて少なく、捨てる時は腐らせて土に帰すこともできますし、燃やしてもあまり有毒なガスを出しません。樹木が成長する量よりも木材として利用する量が少なければ、森林を維持することができます。先進国にしながら伝統を大切にし豊かな心をもった、北欧の人達のもの考え方から学ぶ点は多いと思います。

長期出張で職場の人にも家族にも多くの迷惑をかけましたが、その分研究面のみならず精神面でも得たものは多かったと思います。これからの日本の発展のために木材研究の必要性を強く感じて、気持ちも新たに帰ってきました。

(はた としみつ 木質科学研究所助手)

随想

隕石、波および ENIAC

名誉教授 山 元 龍三郎

若い頃の経験を思い起こすと、落語の三題噺のように、表題の3つの言葉が浮かんでくる。

私が1908年のシベリア大隕石落下について知ったのは京都大



学大学院在学中のことであった。当時私は気圧の微細変化を観測していたが、1954年3月に奇妙な波形の観測に気づいた。これを指導教官の故滑川忠夫教授に報告したところ、英国気象局長のショウ卿が原因不明の変化として著書に記していたものと波形がよく似ているので、文献を調べるように指示され

た。

ショウ局長の原因不明とした波形の正体が判明したのは、彼が気づいてから20年以上も経過した1930年のことであった。彼の教え子のホイップル博士が、地震計記録と照合して調査した結果、シベリアのバイカル湖近くで発生して、英国までの約7,500キロの距離を伝播してきた大気の波だと結論した。その場所では、1908年6月30日にマグニチュード5規模の地震があり、約2,000平方キロの森林がなぎ倒された。大隕石落下の衝撃で大気の波が発生したに違いないとの結論であった。

私が1954年3月に気づいた波形は、シベリア大隕石によるものと非常に類似していたので、爆発が原因だと推測した。その後も立て続けに観測され、結局、太平洋での米国の水爆実験による大気波動だと結論できた。この大気波動の波形の検討が、世界初のデジタル電子計算機 ENIAC とのかかわり合いを生んだ。

英国で観測されたシベリア大隕石落下による大気波動の周期は2分乃至30分である。その他に、当時の器械では周期を確定できないほどの短い周期の振動が記録されていたが、これは地震動によるものだというのがショウ局長の解釈であった。この解釈を支持する理論が、ENIACを利用して組み立てられた。

大衝撃による大気運動のうちで数千キロの遠方まで伝播するものは、大気の重力波である。その波動理論には合流型超幾何方程式と呼ばれる微分方程式が現れるが、これを解析的に解くことは困難である。ENIACを利用してこの方程式を数値的に解い

たのが、イスラエルのワイズマン研究所のペケリス教授である。彼は、高さと共に気温の低下する対流圏が約10キロの高度まで存在し、その上に気温一定の成層圏が無限大の高さまで広がっているという大気モデルを設定して、計算を進めた。彼は、遠距離まで伝播しうるのは2分より長い周期の波に限られ、短い周期の波は伝播途中で減衰して遠くまで到達しないとの結論を得て、1948年のフィジカル・レビュー誌に発表した。

しかし、私は、水爆実験の際の波形について1分程度の短周期を確認し、ペケリスの大気モデルを修正して彼の理論の改善の必要性を認識した。一様気温の成層圏の代わりに、高度と共に気温の上昇する気層を高さ30キロから50キロまで挿入することにより、1分程度の短周期の波の長距離伝播が可能となること、定性的考察から示唆された。

しかし、当時、私たちはENIACのようなデジタル計算機を自由に利用できなかったので、思い切った近似をほどこしてペケリス理論の近似的拡張を試み、私の学位論文が完成して学会誌に印刷公表されたのが、1957年のことであった。

後日談：近年になって行われたシベリアの爆発地点での地層探査の結果、隕石の形跡が全然見当たらないので、隕石落下説に疑問を抱く研究者もあり、最近では、この現象をツングスカの爆発と呼ぶのが一般である。その正体に関する議論は今なお賑やかで、1996年のNature誌に論文が掲載されたりしている。

(やまもと りょうさぶろう 元理学部教授
平成3年退官 専門は気象学・気候変動論)

京都大学の百年 (第23回)

京都帝国大学の創立と第三高等学校

— 一つの史料から —

京都大学の歴史には、まだまだ未解明の部分が多い。いうまでもなく京大は1897(明治30)年6月に創立されるのだが、文部省で創立への動きが本格化するのは日清戦争が終結(1895年5月)してからの

ことである。このわずか2年という短い期間で、東京帝国大学に次ぐ第2の帝国大学がどのように発案され、どのような議論を経て創立に至ったのか、そのことを語る史料は実は数少ない。

『京都大学七十年史』にも紹介されている史料である「京都帝国大学創立計画ニ関スル諸案」（文部省で作成されたものであろう）では、新設される京大について具体的に書かれている一方、それまで吉田にあった第三高等学校は、その土地・建物を京大に譲り渡して別に校地を求める形で存続することが提案されている。つまり、新しくつくられる京大は京大、従来からある三高は三高として、別個の学校として維持されるということである。これは、現実にもそのような形で進行したこともあって、当たり前のように見えるが、当時の状況に照らし合わせると、必ずしも唯一の選択肢というわけではなかったようである。

今回、『京都大学百年史』を編纂するにあたって、百年史編集史料室では広く史料を収集しているが、そのなかで、前述の「京都帝国大学創立計画ニ関スル諸案」とは異なった内容の創設計画案が発見された。これはB4判よりもひとまわり程度大きな紙を十数枚袋とじにしたもので、文部省内で作成されたものであろう。史料には会議の出席者によると思われる若干の書き込みがあって、案の変遷が推測できるのが有り難いかぎりである（写真1、2はその一部）。

写真2を見ると、第1項目に「第三高等学校ヲ更メテ京都帝国大学トナス」と書かれている。さらによく見ると、そのうえから手書きで修正があって、「京都ニ帝国大学ヲ置キ第三高等学校ノ土地建物ヲ以テ之ニ充ツ」と改められている。これはいったい何を意味するものなのか、大きな問題である。

そもそも京大創設前後の時期、高等教育のあり方については、政府の内外で様々な議論があった。そのなかで有力だったのは、帝国大学の水準が高すぎるため、帝大は研究機関として進学体系からはずし、高等学校を実学重視の大学と改編するべきである、という構想であった。これは、日清戦争前に文部大臣だった井上 毅（こわし）が主張していて、具体化も進んでいた。特に京都の第三高等学校は、舎密局以来関西における最高の学府であったという歴史的経緯もあり、大学昇格の可能性が最も高かった。一時期、第三高等学校において本科（大学進学課程）が廃止され、完結した教育体系をもつ専門学部（法、工、医）のみに改編されたのもその表れで

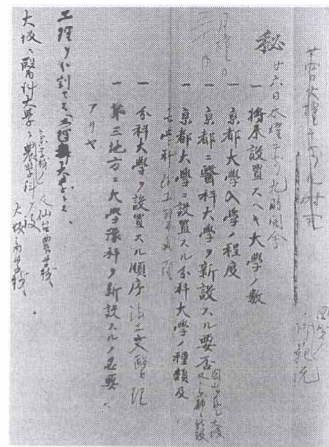


写真1

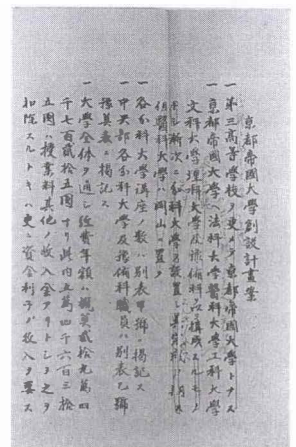


写真2

あった（なお、現在本部正門を入れて右側のクヌノキの下にある小さな石碑は、このときの本科の廃止の際に作られたものである）。この高等学校昇格論は、井上の病氣辞任（1894年8月、翌年3月死去）や日清戦争後の社会状況の変化によって、政府部内では顧みられなくなると考えられていた。しかし、今回紹介した史料によれば、実は、文部省においては、京大創設の方法のひとつとして、京大を全く新たな高等教育機関として設置するのではなく、現存の第三高等学校を改編して京大とする案が考えられていたのである。それが、議論が進むなかで三高昇格案は放棄され、両者を別個の学校として設置するように変更されたのである。

ところでこの変更はいつごろ行われたのだろうか。今度は写真1のほうをよく見ると、右側に「廿六日木曜午前九時開会」とあるのが分かる。京大創設の予算案が議会で提出されたのが1895（明治28）年12月だから、それより前の「廿六日木曜」を探すと、同じ年では9月しかない。どうやらこのあたりの時点で、新設京大のあり方、ひいては文部省内の高等教育体制についての考え方が固まったようである。

第三高等学校は、直接的には1897年創立の京都帝国大学の前身にならなかったことは歴史の事実である。しかし、文部省内で京大創設が具体的に検討された当初には、三高を昇格して京大とするという案が議論されていたという事実も看過されるべきではないだろう。それは三高と京大との関係の深さを改めて教えてくれるものと言えよう。

（百年史編集史料室）

洛書

節分祭と魔女狩り

高橋 義人

吉田神社の節分祭は毎年2月はじめ、学生にとってはちょうど後期末試験の最中に行われる。今から10年ほど前に、友人のドイツ人をこの節分祭に連れていったことがある。年男が豆をまいて鬼を追い払う儀式が終わり、帰りに一杯飲みに行くと、彼は顔を紅潮させてこう語った。「すごく面白かった。これは冬を追い払う儀式だろう。こういう儀式や習俗はヨーロッパでも近代初頭までは残っていたが、今ではもうすっかり姿を消してしまった。欧米と同じような文明国でありながら、欧米ではどうの昔になくなってしまったキリスト教以前の古代的な宗教が日本には残っている。そういうものを見られるのが、とてもうれしい」と。

彼のこの言葉を聞いてから、ぼくは吉田神社の節分祭をそれまでとは違った目で見えるようになった。日本では2月4日か5日が立春に当たり、その前夜に祝われるのが節分祭である。「節分」とは文字通り、「季節」を「分ける」日のことだが、友人の言うように、ヨーロッパにもかつては節分祭に当たる祭があった。

一般の日本人にとって立春はまだ厳寒の最中であろう。多くの日本人にとって、本格的な春は4月1

日にやってくる。しかし日本よりもはるかに北方にあるドイツでは、春は5月1日に始まる。その前夜にはゲーテの『ファウスト』で有名な「ヴァルプルギスの夜」が祝われる。これは本来は冬を追い払い、春を迎える祭で、ドイツの農民たちはブロッケン山頂などの決められた場所に集まり、日本人が満開の桜の木の下でどんちゃん騒ぎをするように、酒を飲み、歌をうたい、踊りをおどって楽しくすごした。

むろんこの行事は、イエス・キリストではなく、農耕の神に祈りを捧げる祭だった。そのため近代に入り、キリスト教の監視の目が農村部にまで及ぶと、これはいかがわしい異端者の集会ではないかという疑いがかけられた。しかも疑いは昂じて、やがてこの集会を魔女の宴と見なすにいたった。魔女の疑いをかけられた多くの農民は、拷問によって悪魔を崇拝したと自白させられ、ついには火あぶりになった。

異端審問官たちは一つの宗教をファナティックに信じていたからこそ、無数の農民を平気で火あぶりにできたわけだが、日本人もこうした「狂気」と決して無縁ではないことを、ぼくたちは最近のオウム事件で知るにいたった。こういう事件に出くわすと、どうも人間は過去の歴史から教訓を学べるほど賢くはないのではないかと、嘆息しつつ思わざるをえない。

(たかはし よしと 大学院人間・環境学研究科教授)

話題

アメリカンフットボール部
2年連続学生日本一に輝く

昨年12月15日(日)、アメリカンフットボールの第51回甲子園ボウル(東西学生王座決定戦)が、阪神甲子園球場に約3万人の観衆を集めて行われ、京都大学ギャングスターズ(関西1位)が3年連続4度目出場の法政大学トマホークス(関東1位)に28-21で逆転勝ちし、創部50周年を2年連続6度目の学生日本一で飾った。年間最優秀選手(ミルズ杯)には杉本 篤(工学部4回生)、甲子園ボウル最優秀選手には堀口 聡(経済学部2回生)が選ばれた。

なお、本年1月3日(金)、東京ドームに5万2千人を集めて行われたアメリカンフットボールの日

本選手権・第50回ライスボウルでは本学ギャングスターズが社会人Xリーグの覇者リクルートシーガルズと対戦したが、16-19で惜しくも敗れ、2年連続5度目の日本一制覇はならなかった。



(学生部)